

2018年10月3日

海のミネラルから生まれたイノベティブ・プラスチック NAGORI®樹脂が 2018 年度グッドデザイン賞受賞、 「グッドデザイン・ベスト 100」にも選出

三井化学株式会社（代表取締役社長：淡輪敏）の組織横断的なオープン・ラボラトリー活動である [そざいの魅カラボ](#)（Mitsui Chemicals Material Oriented Laboratory: “MOLp®”）が開発した「海のミネラルから生まれたイノベティブ・プラスチック -NAGORI®樹脂-」が、「2018 年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。また今年度のグッドデザイン賞の中でも特に優れた 100 件のみが選ばれる「グッドデザイン・ベスト 100」にも選出されました。当社としては、「ワンタッチで瞬時に遠近が切り替わる電子メガネ -TouchFocus™-」、「体験型デジタルショーケース-Touch the TouchFocus-」と共に初のグッドデザイン賞受賞（3 件）であり、TouchFocusと共に「グッドデザイン・ベスト 100」に 2 件選出されました。



（NAGORI®樹脂で作ったビアタンブラー）



GOOD DESIGN AWARD 2018
BEST 100

■ NAGORI® 樹脂とは <https://www.mitsuichem.com/jp/molp/work/12.htm>

海のミネラルから生まれたイノベティブ・プラスチック NAGORI®樹脂。陶器のような質感を持ちながらも割れにくく、高い加工性からデザインの自由度を広げる新しい素材です。三井化学が得意とするコンパウンド技術により、陶器のような熱伝導性と重量感、量産加工性を持たせることに成功。将来的には、原料となるミネラルを海水淡水化の過程において廃棄される濃縮水を利活用することを見据えており、化学会社として環境性や SDG s にどのように取り組むべきか、真のサステナビリティに近づく未来社会のあり方を提示しています。

■ グッドデザイン賞 審査員コメント

「これからのデザインとは何か？」を象徴するような製品である。具体的には、「淡水化の過程で廃棄される濃縮水」という環境課題に対して、「異なる素材をつなぎこむ」という革新的な化学技術を活用し、「陶器のような質感をもったプラスチック」という新素材の開発に至るそのすべての過程が評価された。このような複合的視点をもった「デザイン」こそ、未来における定番となってほしいものだと感銘を受けた。

